

Agency for Multicultural Affairs

Keywords

3. 1.1 国会移転 原子力発電所
移民 (diaspora) ネオメタボリズム

0. Introduction

「人口問題」と「地球環境問題」は、現人類の最重要課題である。それらは主権国家の枠内では解決が不可能であり、解決には全人類の協力を要する。早急に各国が世界へ開かれ、人口の安定化と地球への配慮を図らなければ、あらゆるものが崩壊するだろう。

1. Scenario

日本は、東日本大震災（以下、3. 1.1）により、これらの問題解決への先陣を切る鍵を握ってしまった。

人口問題については移民受け入れが挙げられる。3. 1.1により、本格的に、TPP（3. 1.1→超円高→TPP。この流れは新帝国循環と言われ、日本が米国の資金循環の回路に組み入れられている仕組である。この米国の戦略から脱し日本が独自に世界をリードしていく政策をとることが今、世界各国からも求められている。）等のグローバル化に関するあらゆる問題に直面せざるを得ない状況になった（図1）。また、世界人口の増加と日本の少子高齢化・人口減少（2050年までに世界人口は30億人増加、日本の人口は3,000万人減少）、更に中国での内乱発生や南北朝鮮の統一の可能性という背景を考えると移民政策が有効である。

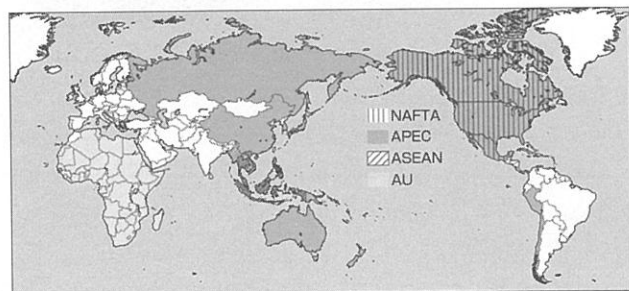


図1 世界の経済協力組織

地球環境問題に関しては、3. 1.1を機に世界でエネルギー戦略の変化（反原発）が生まれ、それが地球環境にとっての致命的な痛手になろうとしている。それは再生可能エネルギーが、技術・コスト面で実用の域にないことと、原発からの撤退によりCO₂ 軽減という原発の使命を失う為である。資源の枯渇問題も踏まえると、短期的には原発で喰い繋ぎ、その間にエネルギー戦略を練る。

そして、長期的には脱原発を実現し、安全でクリーンな再生可能エネルギーへと移行するのが望ましい。加えて、この再生可能エネルギーについて注目されている研究をここで一つとりあげてみたい。宇宙太陽光発電である。これは、宇宙空間に打ち上げた衛星が、太陽エネルギーを使って発電し、そのエネルギーを電波で地上に送り、地上で電力として利用するというものである。パネル一つの出力は原発一基分に相当するため、これが実用化されれば原発は完全に撤退できる。実現可能性も高く、2030年頃を目途に実現するといわれている。

上述した問題と並行して、世界にはこれらの問題に横たわるグリーディー・キャピタリズム（強欲な資本主義）に対抗する新しい秩序を生み、世界を統合する国際機関が必要である。

以上を踏まえつつ、一つのシナリオを提示する。

☆ 3. 1.1を機に、震災復興と首都直下地震等の大災害に対するリスク分散を目的に、福島県に国会を移転。残った国会議事堂は移築保存し、現国会議事堂の敷地に、移民政策用の複合施設と原子力発電所を建設する。そして、この建物を新たな国際研究機関として機能させ、未来のエネルギー戦略や人口移動等の研究を行う場とする。

2. Site

現国会議事堂。敷地面積:10ha（図2）。



図2 敷地

3. Function

世界をコントロール（調整）する国際研究機関。人類・自然環境・テクノロジーなどの様々な文化の共存を促進し、世界のバランスをとり、これからの新しい秩序を創造する。



K08013 伊藤 真一

建物の用途は大きく3つある。

1. 移民政策用の複合施設。住居（個室）、学校（語学や職業）、病院などの機能を持ち、移民のサポートセンターとして機能する。もちろん、日本人も利用できる。

2. 原子力発電所。地球温暖化対策が目的であり、短期的に必要な、原子力エネルギーへの考えを改める機会をつくる。再生可能エネルギーが実用化のレベルに至った際には撤廃する。

3. 研究所→宇宙太陽光発電受信局。最初は、研究所として機能し、未来のエネルギー戦略（宇宙太陽光発電等）や人口移動等の研究を行う。研究が進むにつれて、徐々に、宇宙からのマイクロ波の受信装置、及び変換・送電装置（宇宙太陽光発電の受信局）となる。そのつど、内部の各研究室は適宜、適切な場所へと移動される。

4. Concept

人口の流動性に対応するために、建築も流動性を帯びる必要がある。そこで次の思想を提示する。

「ネオメタボリズム」。基本的にはメタボリズムと同じである。特徴は、各要素が他の建物へ移り、他者との交換があるところ（他の場所へと移ることによって建物自体よりも、そのものがある場所が更新される。建物自体が更新されることでゴミが出てしまうメタボリズムとは違い、エコロジカルなものである）。各要素の形の関係は、2つ以上のものが、各要素が区別できる程度に混ざる（図3）。思想の重点は、世界が流動化へ向かい、バランスを取りながら交換されること。各要素は、階層的な上下関係ではなく、横の関係、あるいは、情報のような複雑な関係をもつ。

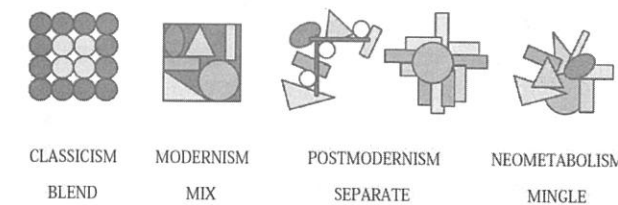


図3 形の関係の比較

5. Image

左がブーランジェ作「奴隷市場」。右はラファエロ作「アテネの学堂」（図4）。偏りのある社会ではなく、公共性が確立され、かつ、個が自由な社会（左から右）。



図4 イメージ

6. Data

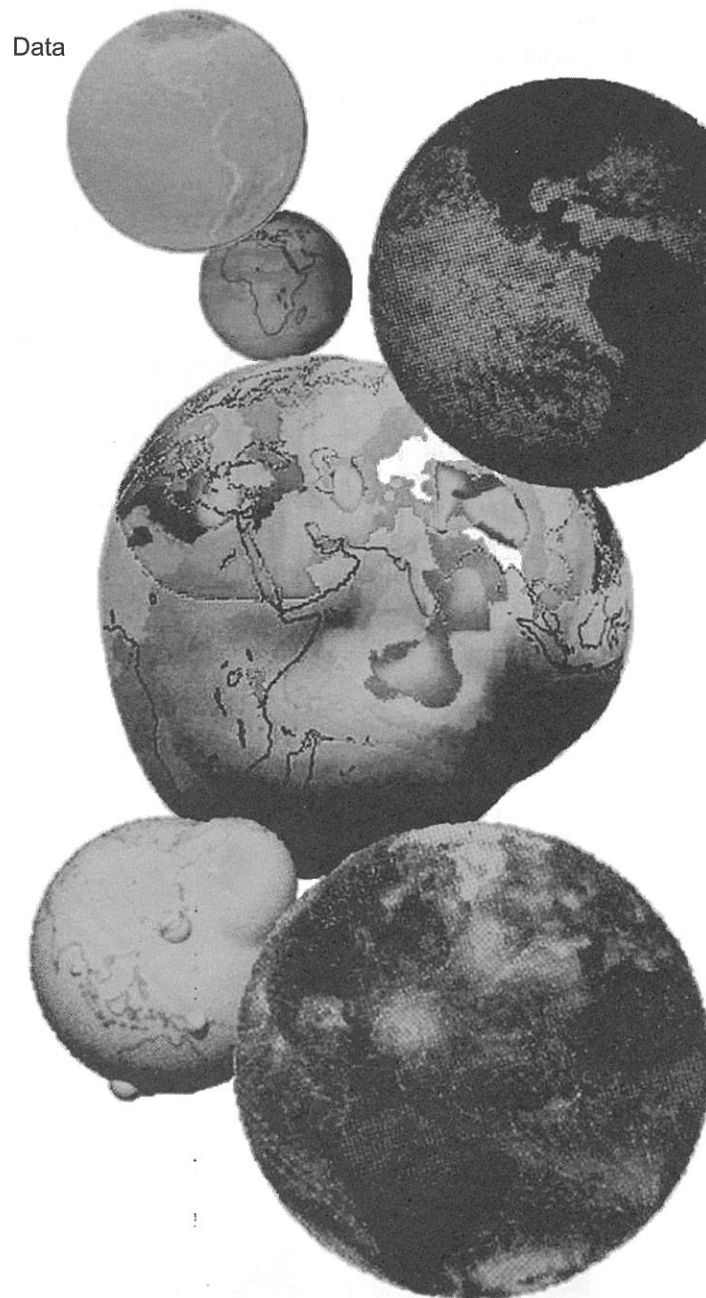
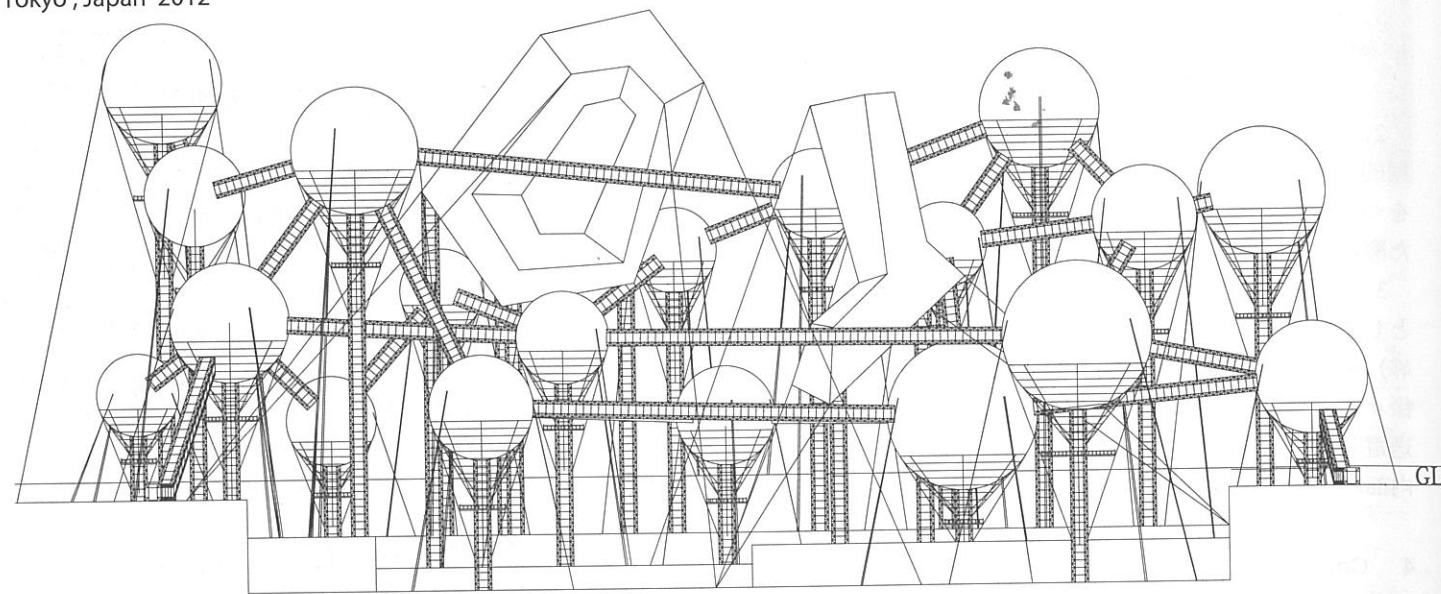


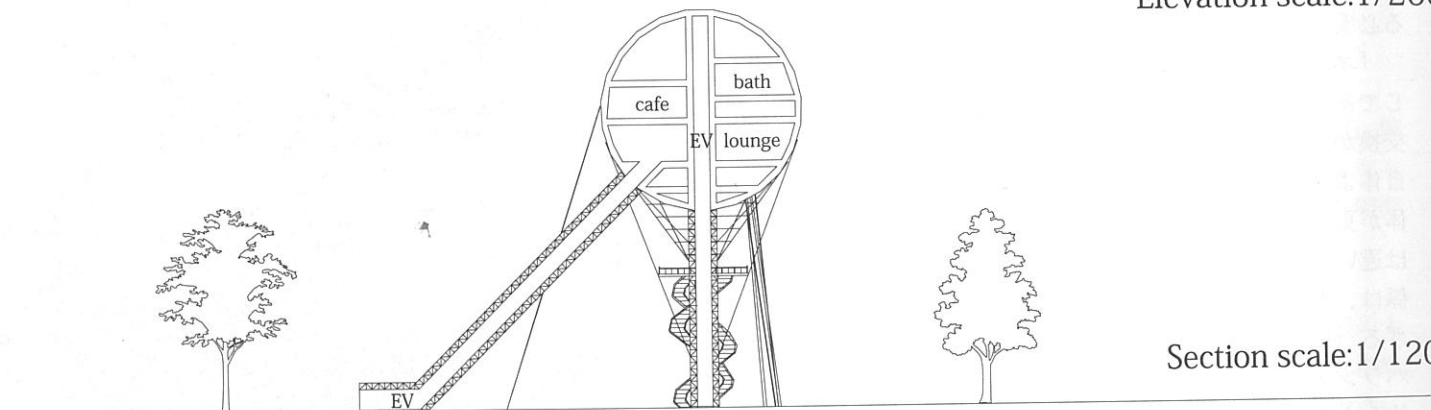
図5 人類の行動が地球にあらゆる影響を与えている。

参考文献

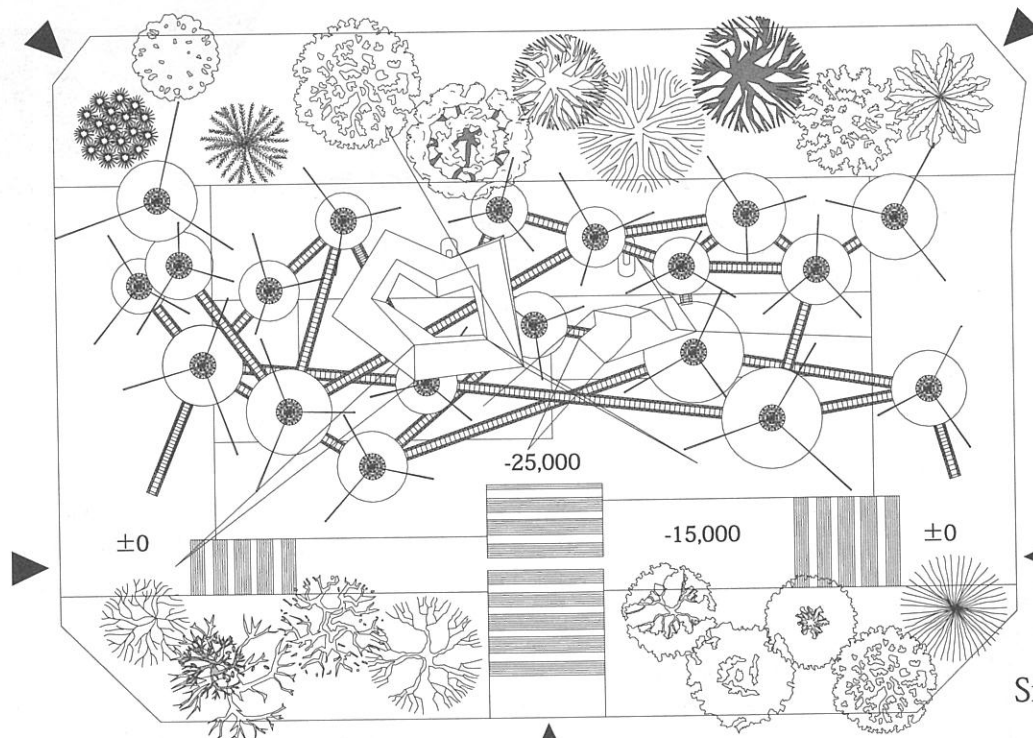
- 1) 宇沢弘文+細田裕子「地球温暖化と経済発展」東京大学出版会 2009年
- 2) 加藤尚武「資源クライシス」丸善 2008年
- 3) 河合弘之+大下英治「脱原発」青志社 2011年
- 4) 坂中英徳+浅川晃広「移民国家ニッポン」日本加除出版 2007年
- 5) ジェームズ・ラブロック「ガイアの復讐」中央公論新社 2006年
- 6) ドゥルーズ+ガタリ「千のプラトー」河出書房新社 2003年
- 7) ジュリアン・クリブ「90億人の食糧問題」CMC出版 2011年
- 8) ドネラ.H.メドウズ「成長の限界」ダイヤモンド社 2002年
- 9) 松谷明彦+藤正巖「人口減少社会の設計」中央公論新社 2002年
- 10) 松本紘「宇宙太陽光発電所」Discover21 2011年
- 11) 八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」オーム社 2011年
- 12) Bruce Mau et al., "Massive Change", Phaidon Press 2004年



Elevation scale: 1/2000

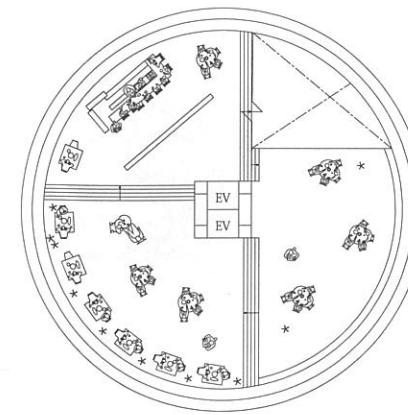


Section scale: 1/1200

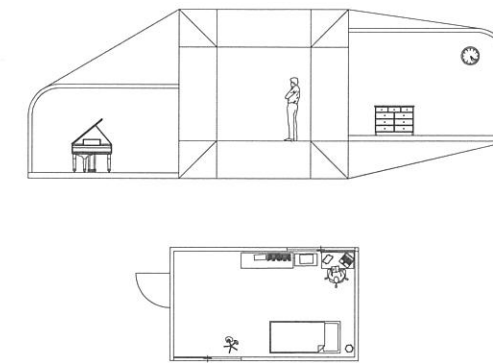


Site plan scale: 1/3000

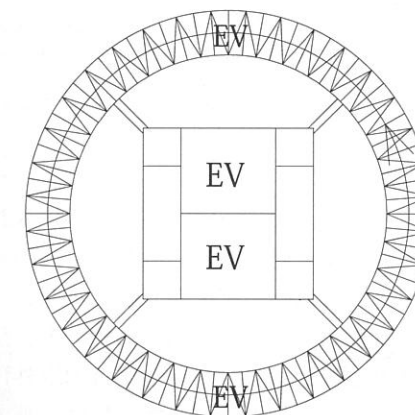
On a forest called "腐海", there is a Institute clothed in the sexual organs (TVCC and CCTV) which dyed by the color of capitalism.
Around it, a sphere (Fuji TV) with the public function whose accumulated information has become complicated (rhizome). They are connected by the network of countries and it has spread information around the world.



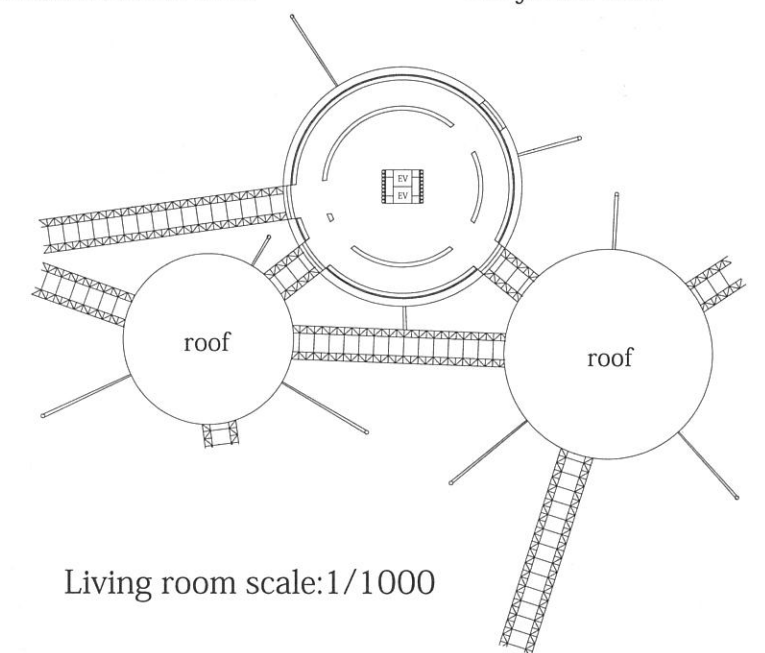
Restaurant scale: 1/600



Private room scale: 1/200



EV core scale: 1/200



Living room scale: 1/1000

Institute→Space photovoltaics receiving station
Dwelling
complex facility→ + forest ±0
Nuclear power plant control room→soil -25,000
Nuclear power plant→Nuclear decommissioning

7.Explanation

敷地の形状は、日本発祥の白銀比（大和比とも）となっている。その白銀比の敷地の中に、黄金比を広場の外形として用いた。これは、日本が世界を調整し、世界平和を目指す意思表示である。その黄金比の矩形の平面上に建物が展開している。

建物の構成は、下から、地中に埋まっている原発（東京の地下にある調節池から川の水を引く）、その上のGLより25m下ったところから立ち上がる原発の制御室、そしてその上に移民政策用の複合施設がある。さらに、その上には、公共の生活機能が集約された、太陽光パネルで覆われている球体とそれを結ぶ通路、そして、その通路に沿って並んでいる個室がある。中央の一番上に位置する2つの異形なものは、研究所である。20年後には原発は廃炉となり、制御室は土となって、その上の複合施設のレベルには森が広がる。研究所は宇宙太陽光発電の受信局となり、エネルギー（電気）を供給する。

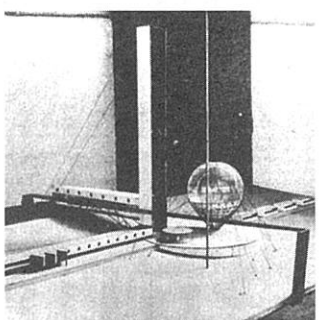
建物にきた人（居住者を除く）はまず最初に、Agency（機関）へ、手続きをしに行く。GLよりも下に位置するので、正面か両側の階段を下ってアプローチする。居住者は、両側の入口から入り、螺旋EV、斜行EV、通常の垂直方向のEVのいずれかに乗って、球体へ向かう。その途中には、景色を楽しむことができる展望台がある。螺旋EVは、ゆっくりと景色を楽しみながらの生活（スローライフ）を想定してつくったものであり、ゴンドラがいくつも吊り下がり、スキー場のリフトのように常に巡回しているものとした。螺旋EVのレール上には、非常階段のかわりとしてキャットウォークが備え付けである。

個室は、部屋としての機能しか持たない。生活を送るために

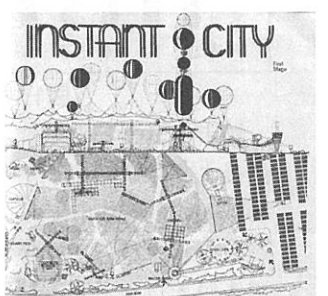
必要な機能は、風呂なら銭湯、キッチンとダイニングならばカフェやレストラン、洗濯室ならばコインランドリーというように、公共の施設に置き換えられて球体の中に集められている。そして、この居住部分でネオメタボリズムが起きる。個室は取り外し可能で、球体もその個室の量に合わせて増減を繰り返す、それによって建物全体のヴォリュームが変化する。

構造について。EVコアを見ると、軸力が四本柱によって真下へ伝達されることがわかる。横方向の風や地震の力は、二つのワイヤーを一組にした三組のワイヤーをコアのまわりに落とすことで力をつり合わせている。球体とつながるワイヤーを四方にコアに張り渡すことで大きな力にも耐えられるように設計されている。研究所も同じようにワイヤーで引っ張ることで水平力に抵抗し、鉛直荷重は柱によって持たせている。

形について。ネオメタボリズムということから、ふわふわと浮いて、動きのあるイメージを持っていた。それを念頭に構造を考えた結果、気球のような形となった（参考建築はレオニドフのレーニン研究所※1とアーキグラムのインスタント・シティ※2）。研究所はOMAのTVCCとCCTVのように男女の性器の形をしている。研究によって、新たな世界を生み出してほしいという願いと、現在の世界の仕組を揶揄している。この性器の形は資本主義の金色で染められており、現在の世界の仕組の、隠された貨幣（や情報）を比喩的に表している。さらにこの形が、宇宙太陽光発電の受信局となった時には、宇宙からのマイクロ波受信装置（女性器）とそのマイクロ波を変換して得られた電気を生成し発信する装置（男性器）となる。



※1 レーニン研究所



※2 アーキグラムのインスタント・シティ